

千島桜並木の一般公開を行いました

管理課・企画室

寒地土木研究所では4月22日から5月2日までの期間、所内の千島桜並木を一般公開しました。

この一般公開は春の恒例行事ですが、今年の札幌は例年より14日ほど開花が早く、公開期間も当初予定より若干短くなりました。しかし、短い開催期間にもかかわらず約4,600人の皆様にご来場いただきました。

千島桜は北海道では道東や道北を中心に、本州では中部以北の亜高山帯、そして千島、サハリン等に自生している落葉低木で、2～2.5cm程度の淡紅色または白色の花をつける北方系の桜です。日本で最も遅く桜前線がたどり着く名所として根室の清隆寺が有名ですが、清隆寺の桜もこの千島桜です。小さく可憐な花ですが、寒さに耐え、ゆっくりと、しかししっかりと成長していく様が北海道の代表的な樹木たる所以なのかもしれません。

現在、寒地土木研究所には、構内を流れる精進川沿いに約200本の千島桜が植樹されています。この千島桜は昭和59年、当時の職員が「構内美化の為にも皆が末永く楽しめる植物を植えたい」という願いから、道東の厚岸郡浜中町霧多布の苗木を取り寄せたものです。植樹当所は幼木だった桜も、現在は3～4mの大きさにまで成長し、例年5月初旬には一斉に開花して、見る人の目を楽しませてくれます。

ところで、皆様は桜前線の開花予想に使われる桜の種類をご存じでしょうか。気象庁による桜の開花日・満開日の観測地点は全国68ヶ所で、主にソメイヨシノを観測対象としています。ただ、沖縄・奄美地方はヒカンザクラ、北海道では、稚内市・留萌市・旭川市・網走市・帯広市・釧路市・浦河町がエゾヤマザクラ、根室市がチシマザクラ、その他の地点はソメイヨシノが観測対象となっているそうです。当所の所在地である札幌市ではソメイヨシノが標本木ですが、例年の様子を見ておりますと、市内では千島桜の開花時期の方がやや早いように感じます。

今年の公開は残念ながら既に終了しておりますが、来年は一足早い桜見物にぜひ寒地土木研究所にお越し下さい。

(文責：岡崎 紗也香)



千島桜



一般公開の様子



ライトアップ